

2026年度 科研費公募説明会

学事センター学事課 科研費管理チーム

2025年8月5日（火）

[○2026年度科研費（7月）公募一覧](#)

[○2026年度科研費（7月）公募スケジュール](#)

[○科研費公募の主な変更点、留意事項](#)

[○研究計画調書の作成から提出までの流れ](#)

[○★お願い★研究倫理教育の受講](#)

[○事務局（学事センター学事課）への問合せ](#)

[＜参考＞チェックリスト](#)

[＜参考＞科研費スケジュール（公募から交付決定まで）](#)

[＜参考＞応募の際に確認する資料・サイト](#)

2026年度科研費（7月）公募一覧

研究種目	補助金・基金* の別	公募案内ページ (日本学術振興会・文部科学省)
○基盤研究(A・B・C) ○挑戦的研究（開拓・萌芽） ○若手研究	【補助金】 基盤研究（A） 【基金】 上記以外	https://www.jsps.go.jp/jgrantsinaid/02_koubou/kiban.html
○国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）	基金	https://www.jsps.go.jp/jgrantsinaid/35_kokusai/01_kyoka/koubo.html
○国際共同研究加速基金（帰国発展研究）	基金	https://www.jsps.go.jp/jgrantsinaid/35_kokusai/03_kikoku/koubo.html
○奨励研究	補助金	https://www.jsps.go.jp/jgrantsinaid/11_shourei/koubo.html
○研究成果公開促進費	補助金	https://www.jsps.go.jp/jgrantsinaid/13_seika/keikaku_dl.html
○研究成果公開促進費の研究成果公開発表（B）（ひらめき☆ときめきサイエンス）	補助金	https://www.jsps.go.jp/j-hirameki/boshu.html
○学術変革領域研究（A）（公募研究）	補助金	https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/boshu/1394559_00019.htm

*【基金】複数年で交付決定される研究費であり、研究の進捗に合わせて、年度の区切りにとらわれずに使用できます。

*【補助金】年度ごとに交付決定される研究費であり、年度ごとに使用する必要があります。

2026年度科研費（7月）公募スケジュール

研究種目	公募開始 (日本学術振興会)	公募締切 (日本学術振興会)	学内締切
「公募一覧」参照	7月14日（月）	9月17日（水） 16時30分	9月7日（日） 23時59分 ※科研費電子申請システム からの提出

期限厳守に
ご協力ください。

※通信エラー等の事故を避けるため、すべての応募書類は**2025年9月12日(金)17時に**、事務局にてまとめて提出を行います。

科研費公募の主な変更点（１）

○学術研究の国際性の強化に向けた制度改革① 【基盤研究 R7公募～】

令和7年度新規採択に向けた科研費制度改革のポイント

- 審査において「国際性」の評価基準を導入 ⇒ 採択課題のみならず応募課題も含めた研究の質の転換・向上
- 国際性の高い研究課題に対して研究費を重点配分 ⇒ 国際的に波及効果の高い研究の活性化
- 「国際・若手支援強化枠」を創設し、若手かつ国際性の高い研究課題を追加採択 ⇒ 若手研究者の研究機会の拡大

「国際性」の評価基準の導入

- ・ 毎年約6万人の研究者が応募する「基盤研究（A・B・C）」の審査に、「国際性」の評価基準を導入。科研費の審査を通じて我が国としての「国際性」のあり方を見出し、国際性を意識した質の高い研究を促していく。

※ 「国際性」の評価においては、国際共同研究を行うものだけに限らず、将来的に世界の研究をけん引する「先導性」、協同を通じて世界の研究の発展に貢献する「協同性」、我が国独自の研究としての高い価値を創出する「独自性」など、「国際性」として評価できる観点から審査

【科研費の評価基準】

- ✓ 研究課題の学術的重要性
- ✓ 研究方法の妥当性
- ✓ 研究遂行能力及び研究環境の適切性
- ✓ 研究課題の国際性（新規）※

「国際性」の評価による重点配分

- ・ 「基盤研究（A・B・C）」においては、国際性の評価が高い研究課題に対して研究費を重点的に配分する。
- ・ 国内外の物価高騰の影響により実質的な研究費が目減りする中、国際的に波及効果の高い研究に十分に組み込むことのできる研究費を確保し、研究の質を向上させる。

「国際・若手支援強化枠」の創設

- ・ 「基盤研究（B・C）」において、若手かつ国際性の評価が高い課題の追加採択枠を設けることで若手研究者が国際性の高い研究課題に取り組む機会を拡大し、我が国のアカデミアを担う優秀な研究者を育成。
- ・ 将来に向けて我が国の研究力向上につながる研究の芽を育む。

科研費公募の主な変更点（2）

○学術研究の国際性の強化に向けた制度改革②【基盤研究 R7公募～】

研究計画調書に、今回提案する研究がどのような国際性を有するかの記載を求めます。

【基盤研究A・B・C】 ※ページ数は変更なし（基盤A：6頁以内 / 基盤B：5頁以内 / 基盤C：4頁以内）

- ・（6）として「国際性」に関する記載を求める指示書きを追加しました。
- ・ 上記追加に伴い、（3）の「国内外の研究動向と本研究の位置づけ」と記載内容が重複するため、「国内外の位置づけ」を「関連分野の位置づけ」に修正しました。

変更前	変更後(R7公募～)
冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的及び学術的独自性と創造性、(3)本研究の着想に至った経緯や、関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ、(4)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、(5)本研究の目的を達成するための準備状況、について具体的かつ明確に記述すること。 本研究を研究分担者とともに行う場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割を記述すること。	冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景や 本研究の着想に至った経緯 、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的及び学術的独自性と創造性、(3) 関連分野 の研究動向と本研究の位置づけ、(4)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、(5)本研究の目的を達成するための準備状況、 (6)本研究がどのような国際性(将来的に世界の研究をけん引する、協同を通じて世界の研究の発展に貢献する、我が国独自の研究としての高い価値を創出する等)を有するか について具体的かつ明確に記述すること。 本研究を研究分担者とともに行う場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割を記述すること。

科研費公募の主な変更点（3）

○審査資料の電子化及びカラー化【R8対象種目追加】

【審査資料の電子化・カラー化の対象の研究種目】※

- ・令和8(2026)年度「基盤研究（A）（一般）」

【既に審査資料の電子化・カラー化の対象となっている研究種目】

- ・令和7(2025)年度「学術変革領域研究（A・B）」、「学術変革領域研究（A）（公募研究）」、「奨励研究」
- ・令和6(2024)年度「特別推進研究」、「基盤研究（S）」
- ・令和5(2023)年度「研究活動スタート支援」、「国際先導研究」、「国際共同研究強化」、「帰国発展研究」

○その他 科研費の使用に関する変更

●研究設備・機器の共用の促進について【R8公募～】

＞直接経費により購入して研究機関に寄付した研究設備・機器のうち、条件（取得価額が1,000万円以上等）を満たすものについては所属する研究機関の内外への共用に努めなければならない。

●研究データマネジメントについて【R6～】

＞研究開始にあたり、研究代表者にDMP（データマネジメントプラン）作成を求めます。

＞実績報告書・実施状況報告書において、科研費により生み出され、公開した研究データに関する情報（メタデータ等）の提出を求めます。

●学術論文等のオープンアクセス化の推進について【R8公募～】

＞科研費の実施状況報告書・実績報告書において、学術論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後の即時オープンアクセスの実施有無を報告を求めます。

※詳細については、[日本学術振興会の科研費説明会資料](#)を参照してください。

<留意事項> 研究計画最終年度前年度の応募について

特別推進研究及び**基盤研究**の研究課題のうち、条件を満たすものについては、**「研究計画最終年度前年度に応募」**として研究計画を再構築して応募することが**可能**です。



研究計画最終年度前年度に応募が可能な継続研究課題	新たに応募することができる研究種目
特別推進研究の研究課題うち、研究期間が4年以上の研究課題	基盤研究（S・A・B・C）
基盤研究（S・A・B・C）の研究課題のうち、研究期間が4年以上の研究課題 （応募区分「特設分野研究」を除く。）	特別推進研究、 基盤研究（S・A・B・C）
若手研究、若手研究（A・B）の研究課題のうち、研究期間が4年以上の研究課題	基盤研究（S・A・B・C）
若手研究、若手研究（A・B）の研究課題のうち、研究期間が3年の研究課題	基盤研究（S・A・B）

現在、Google検索等でAIによって**「最終年度前年度応募は廃止された」との誤った情報が生成され、検索結果として表示される例**が確認されていますが、**令和8(2026)年度公募においても本制度は継続しています。**

科研費の公募に関する情報は、公募要領の記載内容をご確認ください。

検索結果として誤った情報が表示される例



Google 最終年度前年度応募

すべて ニュース 画像 ショッピング 動画 ショート動画 ウェブ もっと見る ツール

AIによる概要

科研費の「研究計画最終年度前年度応募」は、研究計画の最終年度の前年度に応募できる制度でしたが、廃止されました。今後は、原則として研究計画の最終年度には応募できません。

詳細:

以前の制度:

研究計画の最終年度の前年度に、研究計画を再構築することを希望する場合に、科研費の応募が可能でした(一部の応募区分を除く)。

廃止の理由:

現在は、この制度は廃止され、原則として研究計画の最終年度には応募できません。

もっと見る

科研費の概要・使用ルール等について
研究計画最終年度前年度応募 当該研究の進展を踏まえ、研究計画を再構築することを希望す...
国立大学法人 愛媛大学 研究・産学連携推進...

【科研費（最終年度）】研究成果報告書の提出について（締切 5/29(金)）
科研費の研究代表者は、研究最終年度の翌年度6月30日までに「研究成果報告書」を提出することが義務付けられています。

研究計画調書の作成から提出までの流れ（１）

Step1 ： 公募要項等の確認

○公募要項等

[2026年度科研費（7月）公募一覧＞公募案内ページ](#)

○審査における評価基準等

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/03_shinsa/index.html

○審査区分表等

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/02_koubo/shinsakubun.html

※研究種目によって異なります。応募する研究種目に対応する「審査区分」を選択してください。

研究計画調書の作成から提出までの流れ（２）

Step2 : 研究者登録情報の確認

○府省共通研究開発システム（e-Rad）

✓ e-Radで研究者登録情報が正しく登録されていますか

✓ e-Rad研究者情報において、研究インテグリティに係る情報が登録されていますか（[次のスライド参照](#)）

○科研費電子申請システム ※e-RadのID・PWでログイン

<https://www-shinsei.jsps.go.jp/kaken/index.html>

✓ e-RadのID・PWで科研費電子申請システムでログインできますか

※ID・パスワードを忘れた場合、リセット作業を行いますので、事務局（kakenhi@c2c.ac.jp）まで連絡してください。

<補足> e-Rad 研究インテグリティに係る情報の入力



研究者情報の修正

研究者の基本的な情報の登録/修正を行います。

②

基本情報 研究分野 所属研究機関

所属する研究機関

③

e-Rad外の研究費の状況および役職と所属機関への届け出状況

(1) e-Rad外の研究費

契約の種類	相手機関(相手機関の国名) 制度名 研究課題名 (研究機関)	予算額	エフォート (%)	機密保持契 約締結有無	削除
④	④ 行の追加				

(2) (兼業や、外国の人材登用プログラムへの参加、雇用契約のない名誉教授等を含む) 現在の全ての所属機関・役職

兼業、外国の人材登用プログラムへの参加、あるいは雇用契約のない名誉教授等	相手機関の所在地	削除
④	④ 行の追加	

(3) 誓約状況

寄附金等や資金以外の施設・設備等の交換を含む、自身が関与する全ての研究活動に係る透明性確保のために必要な情報について、関係経理等に基づき所属機関に適切に報告しているか。

☐ 報告している ⑤ 必須

誓約状況履歴

変更日時	変更内容
------	------

操作手順

- ① e-Rad トップ画面右上に表示されている研究者氏名のプルダウンより、【研究者情報の確認・修正】をクリック
- ② 続いて表示される「研究者情報の修正」の画面で【所属研究機関】タブをクリック
- ③ (1) e-Rad 外の研究費、(2) 兼業、外国の人材登用プログラムへの参加、あるいは雇用契約のない名誉教授等の記入欄に必要事項を入力
- ④ 必要に応じて【行の追加】をクリックして行を追加
- ⑤ ③の事項について適切に所属機関に報告をしていることを確認のうえ、「(3) 誓約状況」のチェックボックスにチェックを入れる

ご確認ください。

e-Rad外の研究費：下記(A)または(B)に該当する研究費
(A)：競争的研究費ではないもの
(B)：競争的研究費に該当するがe-Radで応募を行っていないもの

注意

※⑤は必須となります。研究代表者及び研究分担者全員
チェックが入っていない場合、応募できません。

[前のスライドへ](#)

※科研費電子申請システムでは、e-Radに登録された研究インテグリティに係る情報を連携しておりますが、連携に1時間以上要する場合があります。応募締切直前に登録しても連携されない可能性がありますので、時間に余裕をもってご登録ください。

[資料のダウンロード](#)

研究計画調書の作成から提出までの流れ（３）

Step3 ： 応募書類の作成

- 研究計画調書の作成・入力要領等：[2026年度科研費（7月）公募一覧＞公募案内ページ](#)
- [科研費電子申請システム 操作手引き（応募用）](#)

[科研費電子申請システム](#)にログインして、応募書類（研究計画調書等）を作成します。

【研究計画調書の構成】

●Web入力項目

研究課題名や応募額、研究組織などの研究課題に係る基本データを、応募者が科研費電子申請システムにより、**Web上で**入力する部分

●添付ファイル項目

「研究目的、研究方法」などの研究計画の内容を、**Wordファイル**に入力する部分

※応募する研究種目の[公募案内ページ](#)からダウンロードしてください。**必ず今年度の様式を使用してください。**

研究計画調書の作成から提出までの流れ（４）

Step4 : 応募書類等の学内提出

提出物	提出方法	学内締切
応募書類	科研費 電子申請システム	9月7日（日） 23時59分

※応募書類の詳細については、応募する研究種目の公募要項や研究計画調書の作成・記入要領等を参照してください。

Step5 : 応募書類のチェック

応募書類のチェックを、事務局（学事センター学事課）にておこないます。

※チェック終了後、必要に応じて、事務局よりご連絡する場合がありますので、**提出後連絡が取れるようにしてください。**

研究計画調書の作成から提出までの流れ（５）

Step6 ： 日本学術振興会へ、応募書類の提出

事務局（学事センター学事課）より、科研費電子申請システムより、日本学術振興会へ応募書類を提出します。

※通信エラー等の事故を避けるため、すべての応募書類は2025年9月12日(金)17時に、事務局にてまとめて提出を行います。

★お願い★研究倫理教育の受講（１）

科研費により行われる研究活動に参画する**研究代表者**及び**研究分担者**は、令和 8 (2026)年度科学研究費助成事業の**新規研究課題の交付申請前までに（2025年度内）**、**自ら研究倫理教育に関する教材（①か②）の通読・履修をする**、又は、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」を踏まえ**③研究機関が実施する研究倫理教育（FD研修）の受講をする**必要があります。

① 科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－（*Green Book*）の「通読」

- [文部科学省案内ページ：日本語第2版・英語版](#)

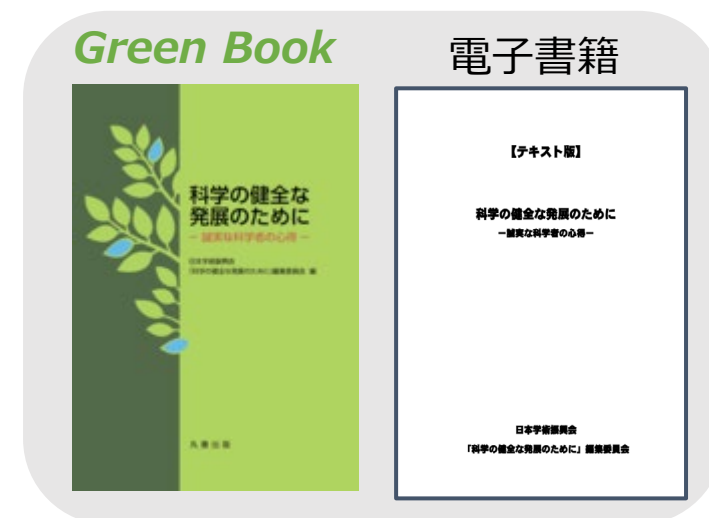
② APRIN研究倫理eラーニングプログラムの「履修」

- <https://edu.aprin.or.jp/> 3つのコースから1つを受講

<ID・PW配信日>

- ・2024年4月1日付採用：2024年8月6日（火）メール配信
- ・2025年4月1日付採用：2025年5月21日（水）メール配信
- ・2025年9月1日付採用：2025年11月6日（木）メール配信

※ID・パスワードを忘れた場合には、ログイン画面の「**ユーザ名・パスワードを忘れた方**」をクリックし、パスワードの再設定を行ってください。



★お願い★研究倫理教育の受講（２）

③ カリキュラム委員会FD部会主催の全学FD研修会の「受講」

2024年度は「研究公正という概念は学術・研究活動の環境変化によってどう変わるのか」をテーマとして実施。
2025年度は、2026年1月末に実施予定。

※本年度より、現在科研費を使用している研究者、および新規採択された研究者につきましては、FD研修会への参加／動画の視聴が**必須**となっております。

研究倫理教育の受講期限：
交付申請前（2026年4月～） ※すなわち、2025年度内

※応募後、審査結果通知や交付申請等のスケジュールについては、[科研費スケジュール](#)を参照してください。

事務局（学事センター学事課）への問合せ

2026年度科研費公募について、ご質問、ご不明な点がありましたら、以下の【問合せ先】に連絡してください。

よくある質問①

Q:科研費電子申請システムのログインID・パスワードを確認したい。

A:リセット作業を行いますので、事務局に連絡してください。

よくある質問②

Q:APRIN研究倫理eラーニングプログラムの受講記録の確認をしたい。

A:受講記録をお伝えできますので、事務局に連絡してください。

よくある質問③

Q:科研費の応募にあたり、再度、APRIN研究倫理eラーニングプログラムを受講したい。

A:再度の受講も可能ですので、希望される場合には、事務局に連絡してください。

問合せ先

事務局：学事センター学事課
科研費管理チーム

担当者：スリヤ、張

E-mail：kakenhi@c2c.ac.jp

<参考> チェックリスト

【共通要件（研究者）】

○e-Rad

- ✓ 研究者登録情報の確認
- ✓ 研究インテグリティ情報の登録

○科研費電子申請システム

- ✓ 応募書類の提出（Web入力項目、添付ファイル項目）

学内締切：9月7日（日）23時59分

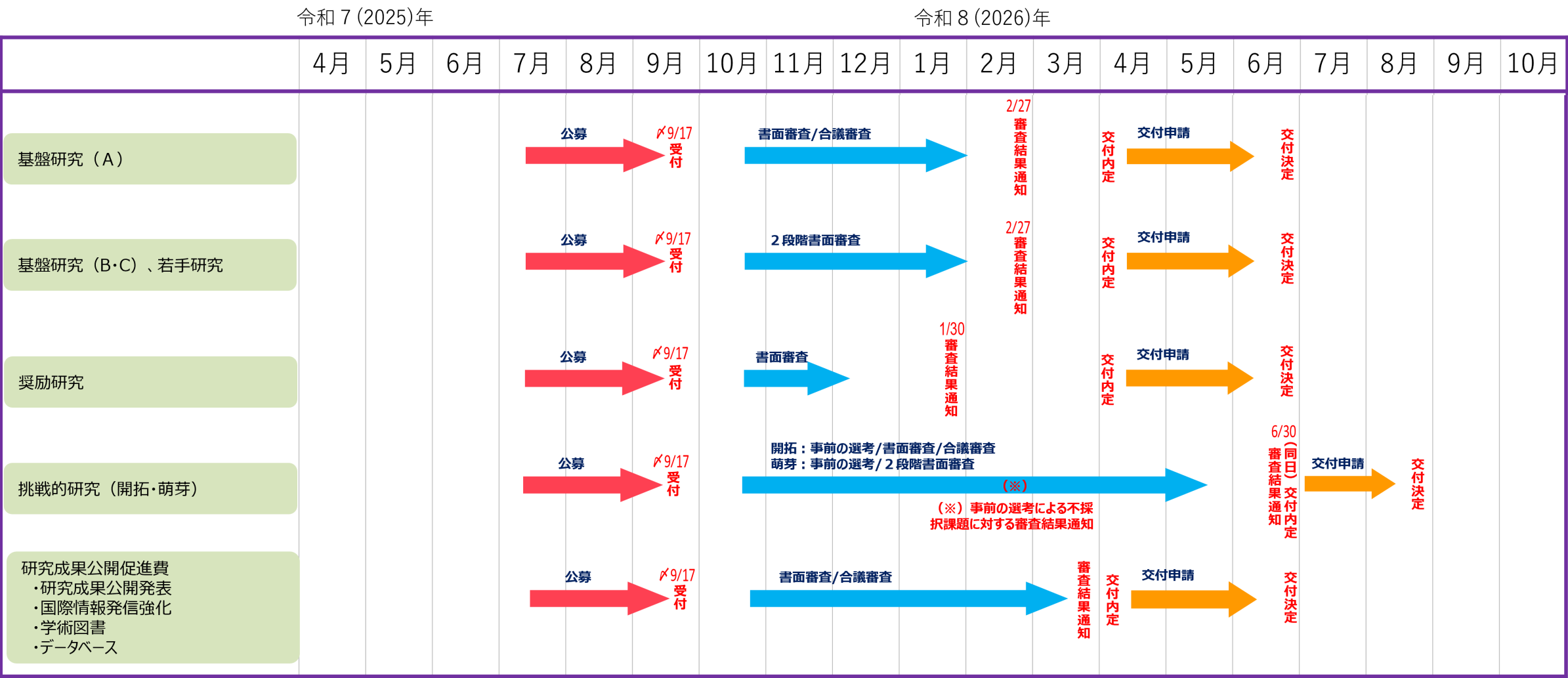
○Green Book、APRINシステム、研修倫理に関するFD研修会

- ✓ 研究倫理教育の受講 ※2025年度内

【個別要件】

応募する研究種目の公募要項等を参照してください。

<参考> 科研費スケジュール（公募から交付決定まで）



※その他の研究種目のスケジュールについては、[（日本学術振興会）科研費スケジュール](#)を参照してください。

<参考> 応募の際に確認する資料・サイト

【科研費について】

- [日本学術振興会 科研費サイト\(jsps.go.jp\)](https://jsps.go.jp)
- [科研費ハンドブック【研究者用】 2025年度版 \(jsps.go.jp\)](https://jsps.go.jp)
- [科研費FAQ \(jsps.go.jp\)](https://jsps.go.jp)

○[山梨学院大学 教員向けポータル> 科研費](#)

※公募情報、説明会資料、科研費マニュアル等が格納されています。

【科研費の応募について】

- [日本学術振興会 科研費説明会資料\(jsps.go.jp\)](https://jsps.go.jp)
- [科研費公募案内ページ> 公募要項等](#)
- [科研費スケジュール：公募から内定まで\(jsps.go.jp\)](https://jsps.go.jp)
- [科研費の審査・評価について \(jsps.go.jp\)](https://jsps.go.jp)

※研究計画調書の作成に当たっては、評定要素を十分にご確認ください。

【科研費関連システム】

- [府省共通研究開発システム \(e-Rad\)](#)
- [科研費電子申請システム \(jsps.go.jp\)](https://jsps.go.jp)
- [科研費電子申請システム 操作手引き \(jsps.go.jp\)](https://jsps.go.jp)

【研究倫理教育】

- [科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得 \(Green Book\)](#) ※日本語・英語
- [APRIN 研究倫理教育eラーニングプログラム \(eAPRIN\)](#)